

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社大矢野会		
事業所名	グループホームおおやの (みどりユニット)		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8		
自己評価作成日	令和3年11月5日	評価結果市町村受理日	令和4年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋造りで、事務所を中心に2ユニットの造りの施設になっており、入居者・スタッフが自由に行き来でき、普段よりお互いに交流し、また、毎月合同にてミーティングを行い情報を共有することにより、協力できる体制づくりに努めています。ホーム内は、談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することができ、すぐに対応できるようしています。隣接する医院との医療連携により、入居者及び家族に安心していただける環境・体制づくりに努めています。また、家族との関わりを大切に、毎月担当者からの近況報告並びにホーム広報を送付しています。2回/年の家族会(開所祝・敬老会)は、運営推進会議と合同にて開催しており、外部との交流に努め、また、毎回多数のご家族の皆様に参加協力をいただいています。現在、感染症の流行により、書面にての開催となっておりますが、毎回ご家族、運営委員の皆様より多数のご意見、ご協力を頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者へ尊敬の念を忘れず、傾聴の姿勢をもって安心して生活できる環境を提供するといった理念は、会議資料やプランにも反映されている。通常開催ができなかったものの運営推進会議の意見書には理念を添付してホーム基本姿勢を啓発しながら関係者の意見を収集し、個々のプランにも随所に理念への思いが表出している。書面審議での会議であっても、関係者からの意見や提案、職員への感謝の言葉などが毎回寄せられ、関心の深さが窺える。手作り調理にこだわり、地元の食材を使った馴染みの食事は入居者や職員の活力となり、「牛肉を食べたい!」など、自ら要望される方もおられるようである。家族の意向に寄り添い入居者の最期までを支えており、長いホーム生活が想定されることから一日一を大切に過ごしながら邁進しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践につなげるよう努力している 4月全体ミーティング時、基本理念の確認を行った	開設時からの理念である。年度当初にはあらためて理念に向き合い、入居者への敬いの気持ちや安心して生活する場となっているかなど確認する機会が持たれている。新たな入居者家族や入職した職員へも理念やホームの成り立ちについて話をし、基本的な考え方や入居者への思いを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により困難な状況である ボランティア、高校福祉科実習受け入れ等外部との交流が難しい状況である	コロナ禍であった今年は、地域行事や定期的な活動、訪問等行われていない。例年であれば地元高校の実習受け入れや各ボランティアとの交流などが行われるところであるが、同じく中止されており入居者にも残念な一年となっている。	これまで交流のあった学校やボランティア団体とは電話などを通じて連携を図り、コロナ終息後の再開に向け、関係継続に努められる事が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた場合には快く相談に応じている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナのため書類上の報告になっている 毎回意見書の提出をして頂き、それぞれの立場において意見を頂き、サービス向上に活かすよう努力している	運営推進会議は現在、行政や地域代表者、家族への書面審議としている。ホームの情報を資料などで発信し、関係者からの意見や感想、気づきを収集して次回会議でホームの取組状況や課題等を返答する形を取っており、通常開催ができない中に、関係者の意見が反映された会議となっている。	関係者からは専門的な立場や入居者を思う家族の立場でホームへの期待や感謝の気持ちが見て取れる。継続した会議が期待されるところである。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出時等様々な場面において直接担当課を訪問、また連絡を取るようになり、情報交換を行っている 運営推進会議への出席依頼	代表者は書類提出や質問事項があれば行政に足を運び、担当者と直接会話をするように心がけている。市の研修会は中止されたが県の研修がズーム開催にて実現し、職員と共有している。市の担当者とは書類のやり取りや直接訪問することでホームの現状を理解してもらいながら友好的関係性が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠をしておらず所在確認を行っている ホーム内研修も行っている	ホーム玄関は日勤者が出勤した時点でオープンにすることとしており、今年度は新たに網戸を設置し、換気をしながらコロナ対策に努めている。年1回の全体研修やユニットごとの勉強会で身体拘束の認識を深め、運営推進会議では通常開催時に適正化委員会を設置して参加者の意見を運営に反映させている。	職員は入居者にわかりやすい方言を交えながら会話し、ゆっくり関わる事を基本としているが、同時に忙しくなった時などに語気や表現に気になることがあるとしている。今後もスピーチロックなどについては互いの気づきを出し合い、検討されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会やミーティングで学び自分達の言動や対応を振り返る事ができ、些細な事も見逃さないケアに心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者も居るためその都度学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より説明をし、その後も不明な点は、いつでも尋ねてもらおうようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに何もなければ尋ねたり気楽に話せるように声掛けを行っている。現在、家族会等書面開催となっており、毎回意見書の提出をお願いしており、多数のご意見を頂き運営会議にて検討し、サービスの向上に努めている	毎月の広報誌で入居者の様子を写真を交えて発信しながら、窓越し面会や電話で意見を拾うようにしている。また、運営推進会議や家族会を書面開催としているため、資料とともに家族からの意見を収集し、出された内容については一つひとつ返答している。入居者の「牛肉を食べたい！」との一言からすき焼きを提供するなど普段から食への要望に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも話が聞けるようにしておりミーティングや申し送りなどで全員で共有できるようにしている	職員は月の全体会議の後、各ユニットで話し合いの場をもっている。ケア向上や業務改善に繋がる意見を出し合い、運営に反映させている。また、年2回の健康診断、各予防接種の対応など福利厚生を支援し、運営者は職員から話を聞いたタイミングを見ながら相談事に応じる等メンタルへの配慮を行っており、働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、職場環境等意見交換を行いながら見直しや整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により研修の機会が減少し、また研修の方法も変化しており、環境整備、機会確保に取り組んでいる 法人内においてはミーティング時研修を行っている 資格取得研修も情報提供や勤務調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に加入しており、ブロック会にて事業所訪問や交流会研修会等へ参加していたが、現在コロナ禍のため交流が出来ていない状況である		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時、入居時、入居後も話をする機会を多く設け不安要素を聞き出す		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごと不安な事など傾聴しながら関係づくりを築く努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の不安な事、必要な事をサービス利用に生かすよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しながら支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告で毎月報告して変わった事があれば、すぐに連絡し対応に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により困難な状況だが電話で話せるようにしたり途切れないよう努めている	外出がままならぬ中、職員は入居者の横で話を聴き、馴染みの手仕事(干し柿作り・つわの皮むき)などを一緒に行っている。洗濯たみや茶わん拭き、花壇の草むしりなども日課となっており、これまでの生活の延長として受け止め、入居者が関わりやすい環境を作っている。	入居者の中には「もう祭りの時期な～！」と季節への認識と馴染みの行事への思いを口にされる方もおられ、これからも寄り添いのケアから入居者の心の声に耳を傾けられることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守り気配りを行い孤立しないようスタッフが間に入ったり利用者同士の場所を変えたりしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もあったときは声掛けをしたり近況を尋ねたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思が伝えられる方は希望にそっている。困難な方でも暮らしやすいように努めている	「よく見て、よく聴いて、よく話し合う」を理念の一つとしており、入居者との普段の関わりから思いを引き出すようにしている。家族からは面会時や電話、意見書の提出により意向を聞き取り、入居者支援に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日々の話の中、家族からの聞き取りなどで環境保持に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	強制はせず出来る事を見出し現状維持に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント。カンファレンスに基き、本人、家族スタッフの意見を反映しケアプラン作成を行っている	入居者の意向を尊重したプラン作成に努めている。ホーム生活がこれまでの家庭生活の延長に近い状態になることに焦点を当てた内容としている。個々の生活歴や家族からの聞き取りから得意分野やレクリエーションへの関わり、転倒などのリスクに対処する内容を盛り込んでいる。職員は面会の折には家族の思いをしっかりと受け止めるように心している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録ヒヤリハットなどで気づきを共有しケアの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できる方法を考え柔軟なサービスを提供できるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在ホーム内での活動に限られているが安心した生活ができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接医院と医療連携をとっており緊急時に対応できるようにしている 訪問歯科、眼科往診あり	現在は、隣接する医院をかかりつけ医として月2回の訪問診療が行われてる。緊急時を含め、必要な相談、指示を速やかに受けることは本人・家族、職員の安心につながっている。歯科や眼科についても訪問による必要な診療が行われている。	口腔ケアについては毎食後の歯磨きと、必要に応じて衛生士によるチェックも行われている。また、歯ブラシは2か月に1回職員対応で、新たなものが購入されている。このような取組についても家族へ伝えることで、安心や関心につながると思われる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/W訪問看護を受けているが医療連携により併設の医院にいつでも連絡できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行いお互い状態の確認ができるよう努めている場合によってはカンファレンスに参加することもある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期には医療、家族とその都度話し合いその後の方針を決めていく	入居時にホームの取組の説明と、重度化・終末期支援が必要になった場合、あらためて家族の要望を聞きながら方向性を話し合っている。代表者は家族との時間、関わりを大切にしたいとされており、この2年間で数名の方の支援が行われている。コロナ禍にあり家族など関係者の頻繁な面会は難しい現状であったが、直近では玄関から一番近い居室に移動してもらい、すぐに会えるようにするなど配慮されている。支援後は本人を偲びながら全体ミーティングで報告されている。	日々の様子を写した写真をアルバムとして渡しており、最終をホームで過ごした様子を家族からも感謝の言葉を受けている。今後も本人・家族の思いに応えるホームの取組に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い対応の仕方を学んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練、他の研修も行い災害時の対応を身に着けるようにしている	コロナ禍にあり消防署の立ちあいによる訓練は実施されていないが、年2回消防訓練により避難経路や手順、物品の確認を行っている。食料の備蓄として多めの米やレトルト食、缶詰などを確保している。掃除の際はコンセントの埃などにも注意を払っている。	コロナ禍にあり消防署や近隣者、家族の協力を得た訓練は困難のようであるが、連携につながるような情報の発信について引き続き継続されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けを他者にも聞こえるようにしていたため注意するようにした、おむつ交換時はドアを閉める	入居者にとって馴染の方言を使いながらも、慣れ合いや失礼にならないよう職員間で周知を図っている。呼称は苗字や同姓の場合は下の名前でも対応している。身だしなみやおしゃれの支援では入浴後の保湿は女性入居者は特に喜ばれ、衣類の選択も希望を聞いたり一緒に選ぶなど必要なサポートを行っている。職員の守秘義務については入・退職時、研修会の中で周知徹底に努めている。	玄関内に置かれた面会、検温記録簿については、家族が親類の訪問を知る機会などにも役に立つようであるが、個人情報の観点からも検討の余地があると思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度話しかけ意見を聞いたり表情をくみ取って働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に本人の思うように一日を過ごしてもらっているが入浴は午後からにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に沿った衣類の調整ができるよう支援し清潔にできるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った食事の提供に努めている 片付けができる方には手伝ってもらう	開設時からホーム職員による手作り食が提供されている。献立は調理担当者が季節感を取り入れ、入居者から「肉が食べたい！」の一言に急きょ焼きに変更するなど可能な限り要望を取り入れている。食材は地域スーパーからの配達も取り入れ、時には育てた野菜(ゴーヤ・ネギなど)も活用している。以前のように入居者の食へのかわりは少なくなっているが、「何かしましょうか？」と出番を待たれる方もおられ、ごみ入れ袋を作りまとめてもらうなど、できることに取り組んでもらっている。	天草ならではの刺身の提供をはじめ、入居者にとっての楽しみまた、職員の活力につながる手づくり食の提供が継続されていくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量のチェックをし一緒に食事を摂り食べ方を見ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後行う。できない方は介助する		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用 トイレの声かけを行っている	現在、リハビリパンツを使用される方が殆どであるが布パンや昼夜オムツの方もおられ、個々に応じた排せつ支援方法を共有している。また、夜間のみや昼夜使用される方のポータブルトイレは、使用の都度始末を行い、気持ちよく使用できるようにしており、臭気のない居室環境にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分量、軽運動腹部マッサージなど行っている主治医と相談し内服も併用する方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後より入浴してもらっている体調や意思に沿って支援している	湯船にゆっくり浸かれることや身体状況からシャワー浴が中心の方には足浴を併用するなど個々に応じて支援している。基本的に午後から週2～3回の入浴であるが、汚染時などはその都度対応し不快なく過ごせるようにし、入浴後は保湿や水分補給(スポーツ飲料他)に努めている。季節湯(菖蒲・ゆず)は全員が楽しめる間実施し、菖蒲湯の際は、菖蒲を頭に巻くなど入居者にとって昔ながらの取組が行われている。	浴室の棚に置かれた物品については安全や景観の面からも別の場所で管理することで更に寛げる入浴支援につながると思われる。取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望により安静の時間をもうけたりしている 心地よい環境になるよう夜勤中もホールの電気を少し消している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はスタッフ管理薬剤情報で内容確認もする 不明な時は薬剤師に説明を受ける 薬剤師による訪問あり		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で困難な事が多いが出来る事を見出し支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出自粛中なので困難だがすぐ近くでも季節の花を見に行く程度の支援はしている	この2年間は敷地内の散歩を中心に、季節の花を見たり、玄関先での日光浴などでできる支援に努めている。また、職員の特技やアイデアを生かし、ホーム内での楽しみごとに取り組み家族へも写真付きで紹介している。自宅への帰省などができないことで本人や家族もストレスにつながっており、「なんさま、仏様をまいりたい！」と、度々要望される方もおられるようである。	感染症の完全な終息が見えない状況であり、引き続き身近な散歩などの継続に期待したい。また、状況を見ながら個々の望まれる外出を願うばかりである。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの金庫に管理しているが少額持っている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は対応できるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間の光の加減や日中の日光の強さなど考慮している 季節や月ごとに飾り付けを一緒に行う 玄関先に木製ベンチを置き、ゆっくり季節の花を眺めたり外気浴ができるよう工夫している	感染症への対応として玄関に網戸の設置が行われている。外出も控えており職員は入居者がホーム内の活動を通して、楽しさや居心地の良さを感じてもらえるようにしている。10月になると「祭りの時期た〜い！」と言われる方もおられ、男性職員による手作り神輿を準備しリビングでホームならではの秋祭りが行われている。新年には書初めを行いホーム内へ掲示予定である。	リビングには入居者も一緒に作成する季節の壁面が飾られ、今後は書初めも掲示予定である。特技を活かした職員による干支飾りは恒例となっており、来年の虎もすでに完成している。家族の面会時に直接見てもらえるよう感染症の終息が待たれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方を同じ場所へ、ほぼ座る位置は決まっている 時々食卓やソファの位置を変えたりする		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を持ってきてもらい居心地よく過ごせるようにしている	安心して過ごせる居室となるよう本人がこれまで使用していた衣類や小物をはじめ、家具などの持ち込みを依頼している。心の拠り所となる家族の写真の掲示をはじめ、季節に応じた寝具などが整頓して置かれている。居室内も換気や掃除の徹底により家族からも「臭気などがなくてホーム」と感想を伝えられるようである。昨今は木製の家具の持ち込みは少なくなっており、プラスチックの収納ケースを用意される家族が多くなっている。	家族の面会を控えている現状であり、引き続き家族の安心につながるよう居室の様子を伝えたり、不足品の連絡などに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活出来るように環境整備を行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社大矢野会		
事業所名	グループホームおおやの (さくらユニット)		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8		
自己評価作成日	令和3年11月5日	評価結果市町村受理日	令和4年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋造りで、事務所を中心に2ユニットの造りの施設になっており、入居者・スタッフが自由に行き来でき、普段よりお互いに交流し、また、毎月合同にてミーティングを行い情報を共有することにより、協力できる体制づくりに努めています。ホーム内は、談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することができ、すぐに対応できるようしています。隣接する医院との医療連携により、入居者及び家族に安心していただける環境・体制づくりに努めています。また、家族との関わりを大切に、毎月担当者からの近況報告並びにホーム広報を送付しています。2回/年の家族会(開所祝・敬老会)は、運営推進会議と合同にて開催しており、外部との交流に努め、また、毎回多数のご家族の皆様に参加協力をいただいています。現在、感染症の流行により、書面にての開催となっておりますが、毎回ご家族、運営委員の皆様より多数のご意見、ご協力を頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人のスタッフが増えたこともあり、改めて全体で理念に基づいたケアの提供ができるように確認している。4月全体ミーティング時、基本理念の確認を行った		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により困難な状況である ボランティア、高校福祉科実習受け入れ等外部との交流が難しい状況である		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた場合には快く相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催と年2回、家族会を同時に行うことにより随時、意見交換ができるようにしている 現在、コロナのため書類上の報告になっている 毎回意見書の提出をして頂き、それぞれの立場において意見を頂き、サービス向上に活かすよう努力している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席や家族会への参加も促している 書類提出時等様々な場面において直接担当課を訪問、また連絡を取るようしており、情報交換を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の所在確認常に行い、夜間以外の施錠はしないようにし、自由に出入りができる。身体拘束に関する研修会も行き、スタッフ間の理解も高まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティング時などに再確認を行い、日頃のケアが虐待に繋がらないか振り返った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修に参加し、その内容をホーム内で発表することで理解を深める事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者で説明を行っている。一度自宅に持ち帰っていただき、疑問等随時説明を行っている。改定等の際は、家族会や面会時に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で担当者・スタッフ等とゆっくり話す機会を設け、また、家族会・運営推進会議を合同開催し、外部の方も含め意見交換できる場を設けている。現在、家族会等書面開催となっており、毎回意見書の提出をお願いしており、多数のご意見を頂き運営会議にて検討し、サービスの向上に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月1回開き、その後、各ユニットにてミーティングを開き、意見を聞く場を設け反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、職場環境等意見交換を行いながら見直しや整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により研修の機会が減少し、また研修の方法も変化しており、環境整備、機会確保に取り組んでいる 法人内においてはミーティング時研修を行っている 資格取得研修も情報提供や勤務調整を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に加入しており、ブロック会にて事業所訪問や交流会研修会等へ参加していたが、現在コロナ禍のため交流が出来ていない状況である		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人の気持ちに耳を傾けながら、今までの暮らし方や経過を理解し信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護に対する負担などを十分に理解し、安心してホームに任せられるような信頼関係を築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを十分に理解した上で必要とするサービスの説明や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切にし、本人の意思を尊重した介護をこころがけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告にて状態を伝え、また面会時にも随時状態の報告を行っている。面会時には一緒にお茶を飲みながら、ゆっくりできる環境づくりを行っている。現在コロナ禍にて、窓越しの面会となっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との面会や、家族の協力で外出などお願いしていたが、現在の状況では電話での会話と、窓越しでの面会にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室を行き来されたり、食事時には声を掛け合ったり、利用者同士の交流みられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々訪問して頂く家族もあり、交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにて検討し、できるだけ本人の思いに添えるようなケアの検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのコミュニケーションの中で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや経過記録、会話などのコミュニケーションの中で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画ができるようスタッフ間でカンファレンスを開き現状の把握を行っている。家族にも現状を説明し意見を聴くようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録に加え、ひやりハットなどでスタッフの気づきなどを共有し、ミーティング時に全員で再確認を行い、再発防止などに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに対応できるようケアの方針を考え、必要に応じ家族の協力もお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り神輿の訪問があったが、コロナできなくなったため、ホーム内で神輿を作り、気分を味わってもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接医院と医療連携をとっており緊急時に対応できるようにしている 訪問歯科、眼科 往診あり		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックで体調の把握し、異常がみられる場合にはすぐに病院へ連絡できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との情報交換を行い、必要に応じてカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には主治医を含め家族と十分に話し合いを行い、スタッフ全員でケア方針を共有し、家族や本人の希望に添えるように努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡シートを作成し、急変時などに情報の共有ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて避難経路や災害時の避難手順の確認を行っている。また、非常食や水など準備し、災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は理解しやすい地元の方言だが、丁寧語であることに気を付け、敬う気持ちを込めた声掛けができるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を把握し、本人の意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は特に日程は決めておらず、自由に過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を確認しながら、その人にあつた衣類選びを行っている。また、意思の決定が難しい方には職員がえらび、いつも同じような服にならないような配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のゴミをごみ入れにまとめてくれたり、利用者から「何かしましょうか」と声を掛けてくださる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量のチェック行い、食事量の少なくなった方にはおやつなどで、本人の好まれるものを提供し補ったり、刻みやミキサーなどの形状の工夫を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所へ誘導行い、口腔ケアを促している。また体調不良などで洗面所へ行けない方は、居室でのうがいに対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用されている方でも排泄の訴えがある場合にはポータブルトイレやトイレ誘導などで排泄が自立できるように援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に牛乳の摂取を勧めたり、甘いものを好まれる方にはスポーツ飲料など、また、冷たいものが苦手な方には温めて提供するなど無理なく飲めるように工夫を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間はなるべく希望の時間に入れるように調整している。また、入浴拒否が続かれる方には無理強いせず、清拭や更衣などで対応し、気分よく入浴ができるよう援助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠れなかった方などには起床時間を遅らせるなどの対応を行い、体調に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書をファイルし内容を確認している。また、処方時には薬剤師からの詳しい説明も聞く事ができ、質問にも応じてもらえる。 薬剤師による訪問あり		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業を好まれる方には新聞折り、洗濯物たたみ等の手伝いをお願いし、歌が好きな方には歌詞カードで好きな時に歌ってもらなどで気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ができないので玄関先での日光浴などで気分転換してもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方にはお小遣いを持ってもらい、外出時などに自分の欲しい物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気兼ねなく会話ができるよう公衆電話が設置しており、自由に使えるようにしてある。携帯電話を所持されている方もおり、好きな時間に連絡されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者を書いてもらった作品や、行事などの写真の掲示や、季節に合わせた飾りつけなどを行っている。玄関先に木製ベンチを置き、ゆっくり季節の花を眺めたり外気浴ができるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一緒にテレビを観れる場所と、少し離れ少人数で過ごせる場所があり、気分に合わせて、過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使っていたものを持ってきてもらうようお願いしている。家族やお孫さんの写真飾り付けしてあり、新しいものに貼り替えて行かれるご家族もあり、安心して過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各居室など、利用者がよく使用される場所には分かりやすいように掲示し、事故防止のために環境に整備を行っている。		